

# 介護保険事業課 所管業務

事業区分	自主事業 (介護保険事業)	事業名		居宅介護支援事業		事業内容	利用者に必要な援助を考えて居宅介護サービス計画を作成し、各サービス事業者との調整、サービス受給に関する調整を図りつつ給付管理を行う。(営業日及び営業時間)年末年始を除く月～金、時間は8：30～17：15。								
		担当課		介護保険事業課											
実績集計															
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	総計
新規契約者数	4	1	4	0	1	1	11	1	0	0	0	1	0	2	13
契約終了者数	3	4	5	7	4	3	26	0	2	6	4	2	1	15	41
現契約者数	116	113	112	105	102	100	648	101	99	93	89	88	87	557	1,205
実利用者数	105	105	104	99	96	90	599	91	89	83	79	77	76	495	1,094
評価															
上半期評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・施設入所や亡くなられた方もおり契約終了もあるが、月平均2名の新規契約となっている。</li><li>・新規利用者と重度の利用者の方が増えて、要介護3～5の介護度の重い方の割合が昨年同期に比べて増えている。</li><li>・今年度上半期は昨年同期に比べ実利用者数は増えているが、加算を廃止した事で売上額は減少している。</li><li>・現在2名が主任介護支援専門員だが、今年1名が主任介護支援専門員の資格取得に向けて受講準備中である。</li><li>・来年度の介護保険事業所移転、新規事業に向けての準備室の開設及び従事者研修等をおこなう。</li></ul>														
年度評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和4年度より、ケアマネ1名が小規模多機能型居宅介護事業所へ異動になるため、事業所が2名体制となる。介護支援専門員の受け持ち人数には上限があるため、新規利用者の契約が困難になることと新事業開設に向けた準備のため、特定事業所加算を廃止した。このことにより、令和2年度に比べて利用者数、売上ともに減少している。</li><li>・今まで、町内で在宅看取りの件数はほとんどなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり在宅での看取りが4件あった。町内には医療系のサービス事業所がないので、町外の医療系サービスを調整し、在宅での看取りをおこなう事ができた。</li></ul>														

事業区分	自主事業 (介護保険事業)	事業名	訪問介護事業		事業内容	介護保険認定者の利用者宅へホームヘルパーが訪問し、身体介護や調理、掃除等の生活援助サービスを提供する。 (営業日及び営業時間) 365日対応で、事務所営業時間は8：30～17：15。										
		担当課	介護保険事業課													
実績集計																
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	総計	
新規契約者数	1	1	2	3	6	1	14	1	2	3	0	0	0	6	20	
契約終了者数	2	2	5	0	3	2	14	3	3	1	0	2	6	15	29	
現契約者数	52	51	48	51	54	53	309	51	50	52	52	50	44	299	608	
月間延利用者数	507	508	432	457	473	447	2,824	437	460	480	421	436	454	2,688	5,512	
評価																
上半期評価	介護度が高く毎日型等の利用頻度の高い利用者の施設入所や死亡により、昨年度に比べ延利用者数が大幅減となった。一方、比較的介護度が低く、生活援助を必要とされているご利用者は増加傾向にある。 また、9月末で常勤職員が退職した事により、新規利用者の受け入れが困難な状況である。															
年度評価	利用頻度の高い利用者の施設入所、入院、定期的なショートステイの利用により、延利用者数は減っている。要支援、要介護となっても住み慣れた自宅で暮らしていきたいと思われる方は多い。ヘルパーが家事の代行ではなく、自立支援を目的であることを事業所内で共有することができた。利用者のできる部分を探し、又はできる工夫を行い、家事に参加することで自信や意欲を取り戻していくことができる支援を行っている。 12月末に常勤ヘルパーが怪我により長期休職している事により、新規利用者の受け入れが難しい状態が続いている。又、小規模多機能型居宅介護事業への利用移行者が数名おり契約者も減になってきている。															

事業区分	自主事業 (障害福祉 サービス事業)	事業名	居宅介護 重度訪問介護事業 同行援護事業		事業内容	障害者自立支援法に基づく障害者への介護等サービス で、介護保険事業のホームヘルパーがサービスを提供 している。									
		担当課	介護保険事業課												
実績集計															
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	総計
新規契約者数	1	1	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
契約終了者数	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	3
現契約者数	15	15	16	16	16	16	94	15	15	15	15	15	14	89	183
サービス提供時間数	73	66	70.5	72	57	58	396.5	65.5	66	66.5	55	48	63.5	364.5	761
評価															
上半期評価	新型コロナウイルスによる非常事態宣言等が発令されて以降は不要不急の外出を控える為、同行援護の娯楽等の外出実施を控える事となり、昨年に比べサービス提供時間が減少している月もある。生活に必要な外出や病院受診等は出来るだけ対応した。居宅介護の利用者数は昨年に比べ微増している。深刻な感染状況には至っていないものの、引き続き収束の兆しが見えない中で感染予防の対策を続けながら緊張感の強い日々が続いている。														
年度評価	生活に必要な外出や病院受診等は出来るだけ対応しているが、新型コロナウイルスにより、同行援護での娯楽等の外出制限がサービス提供時間数の減に繋がっている。また、利用者の入院、受診先の病院でのクラスター発生により、受診による同行援護が減り、サービス提供時間数の減となっている。														

事業区分	自主事業 (介護保険事業)	事業名		通所介護事業		事業内容	デイスサービスセンター「のじぎく荘」において、入浴、食事、健康チェック、機能訓練等のサービスを提供する。年末年始を除く毎週月～土曜日まで、1日6～8時間で営業している。									
		担当課		介護保険事業課												
実績集計																
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	総計	
新規契約者数	2	0	2	0	0	0	4	2	2	0	5	1	3	13	17	
契約終了者数	1	0	1	3	2	1	8	2	2	3	2	2	0	11	19	
現契約者数	58	58	59	56	54	53	338	53	53	50	53	52	55	316	654	
月間利用者数	741	731	710	703	675	619	4,179	638	641	651	593	616	735	3,874	8,053	
評価																
上半期評価	前年と比較し、ほぼ同じ介護収入になっている。契約者数は前年と比べ上半期合計数が（+23名）月間利用者数も（+17名）となっている。例年と同様、夏場の脱水症状や熱中症での入院やショート利用の頻度が多くなり8月、9月の利用回数の減少の原因となっている。9月17日（金）は、台風14号の影響により閉所した。コロナ予防対策を引き続き徹底実施し、未然防止に努めている。															
年度評価	年間平均利用者数が前年度26.71人/日に対して、今年度は26.05人/日とやや減少した。年間総利用者数に関しては、前年度同様654名で推移した。 業務を遂行する中で最も気を配ったのがコロナ感染症への対応である。基本的な感染症対策を徹底したことで職員のコロナ感染はなかった。引き続き予防に万全を期し安定した運営に配意していく。															

事業区分		自主事業 (介護保険事業) (障害福祉 サービス事業)		事業名	訪問入浴介護事業			事業内容	利用者の居宅を訪問し、移動式浴槽により入浴の サービスを提供する。重介護認定者が多い。							
				担当課	介護保険事業課											
実績集計																
項目／月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	総計
介護 保険	新規契約者数	0	1	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	0	2	4
	契約終了者数	0	0	1	0	1	0	2	1	0	1	0	0	0	2	4
	現契約者数	4	5	4	4	3	4	24	3	4	4	4	4	4	23	47
	延利用者数	43	46	47	40	35	39	250	39	39	31	29	29	29	196	446
障害サ ービス	新規契約者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	契約終了者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	現契約者数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	12
	延利用者数	5	12	13	13	6	11	60	13	13	5	4	4	6	45	105
評価																
上半期評価		契約者数に大きな変化なく、利用者数が少ない時は入院によるものである。障害サービスの利用者は、コロナの影響で通所サービスが利用できないため入浴の利用回数が増えている。現在の営業日は月・水・金の週3日。1日3～4人の利用となっているが、これ以上の利用には、職員の勤務時間「80時間/月」を超えてしまう可能性があるため対応が困難な状況である。														
年度評価		実利用者数には大きな変化はないが、週間の利用回数の減少などがあって下半期の延べ利用者数は減少となった。障害サービスの利用者も通所サービスを利用できたことで入浴の利用は週1回となった。 高齢の利用者が多く、入浴を楽しみにされている。在宅で元気に過ごされ利用が安定することで、年間の延べ利用者数は当所の予定より大幅に増となった。														

# 障害福祉課 所管業務

事業区分		受託事業 (中土佐町)	事業名	相談支援事業所				事業内容	障害者が地域で自立した日常生活・社会生活を営むことができるように支援することを目的とし、「日常生活全般にわたる相談（受託事業）」「障害児（者）の計画相談支援」「地域移行・定着支援」を行う。							
			担当課	障害福祉課												
実 績 集 計																
項目／月		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期計	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	下半期計	年間計
計 画 相 談	新規契約数	3	0	1	1	1	0	6	0	0	0	1	1	3	5	11
	契約終了数	1	3	1	0	1	0	6	0	0	2	0	0	2	4	10
	現契約数	67	66	64	64	65	64		64	64	64	63	64	67		
	相談件数	128	126	131	91	145	140	761	119	81	105	88	104	133	630	1,391
包 括 相 談	相談支援件数	6	21	9	11	23	14	84	15	11	16	20	8	10	80	164
上半期評価		・計画相談支援については、増減があるものの契約数は昨年とほぼ変わらず横ばいである。新規契約者6名のうち、4名は須崎市に新たにできた放課後等デイサービス事業の利用希望者であった。契約終了者のうち3名が高知市への転居によるものであった。高知市への転居者は、精神疾患の悪化から入院になり退院時にグループホームの利用など福祉サービスの選択時に高知市への転居を希望したケースであった。 ・包括相談支援件数は5月に新規相談者と、8月に福祉サービスの利用をやめ計画相談が終了した方への対応がそれぞれ10件ほどあったため、件数が昨年より微増した。 ・大規模災害に備え、事業所の契約者のうち、町内に在住している方89名の災害時対応表を作成し、マッピング作業を実施中である。また、要支援者台帳登録者の避難行動計画の見直しについては、2名の方の計画書を本人や家族と確認し、本人からの要望などを中土佐町役場防災地区担当に伝えることができた。今後も中土佐町役場と連携しながら随時行っていく予定。														
年度評価		・計画相談の契約者数は63名から67名の間で推移している。新規契約は児童が多く、契約終了は町外への転居、介護保険への移行によるものが多い。 ・包括相談は、新規相談者や精神的に不安定になった人への対応が増え、昨年より30件ほど増加した。 ・次年度は児童の新規ケースが微増傾向にあることや、年齢を重ね介護保険サービスの知識が必要なケースが増えてきていることから、職員の知識や専門性を考慮し、相談員が担当しているケースの割り振りを見直していく。また、大規模災害に備え、要支援者台帳登録者のうち本事業契約者の避難行動計画の見直しを、中土佐町役場と連携しながら随時行っていく。														



事業区分	受託事業 (中土佐町)		事業名	地域活動支援センター つどい処		事業内容		中土佐町地域活動支援センター「つどい処」での創作活動や生産活動を通して、障害者の自立と社会参加を図る。								
			担当課	障害福祉課												
実 績 集 計																
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年間計	
開所日数	21	18	22	20	14	7	102	21	20	20	19	18	22	120	222	
新規契約数	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	2	
現契約数	86	86	86	87	87	87	87	87	87	88	88	88	88	88	88	
集いの場利用者数	248	215	226	222	147	95	1,153	270	271	262	243	214	314	1,574	2,727	
相談件数	30	44	51	32	92	129	378	39	26	44	32	23	35	199	577	
評 価																
上半期 評価	<p>・新型コロナウイルス感染防止対策により、集いの場のプログラムを中止、縮小したため集いの場の利用者数は減少傾向である。また、8月末頃から9月中頃まで高知県のコロナステージが「非常事態」となり、つどい処が19日間閉所となったため、開所日数が前年度上半期より8日減少した。</p> <p>・上ノ加江小学校で行った福祉教育をきっかけに利用者らが自らの啓発活動を今後も継続的に取り組んでいきたいと考え、自主活動「Oneチーム」が発足した。今後、地域向けの啓発は自主活動グループ中心に取り組んでいく。</p> <p>・就労リタイア組・若年チャレンジ組の社会貢献活動の開発については、利用者らから聞き取りを行った結果、今後ものづくりを実施予定。</p>															
年度評価	<p>・新型コロナウイルス感染防止対策によりプログラムの中止や縮小があったが、集いの場の利用者数、開所日数とも前年度と大きな差はない。新規契約者数は2名でいずれも関係機関からの紹介によるものであった。</p> <p>・本年度から実施したInstagramによる活動の周知は、活動のスケジュールや活動内容を39回投稿した。利用者やその家族、関りのある関係機関など現在108人のフォロワーがいる。利用者や家族には参加していない活動も知ってもらえる機会となった。</p> <p>・コロナ禍によるプログラム縮小の中で、障害の啓発グループや体力作りの貯筋クラブ、清掃ボランティア活動、精神障害のある人のピアグループなど、利用者等の自主活動が活発になった。</p> <p>・次年度は「久礼の老人憩いの家」に移転予定である。街中にある立地を活かし、感染防止対策を取りつつ、これまで利用がなかった障害者が参加しやすく、地域住民と交流ができるプログラムの見直しと、つどい処を知ってもらうための情報発信を行っていく。</p>															

事業区分	自主事業 鯉乃國の萬屋	事業名	就労継続支援B型事業		事業内容	対象：知的・精神・身体・発達障害者及び難病患者 内容：その利用者の望む暮らしの実現に向けて、就労生活において必要な生活支援や就労訓練を提供し、就労時間等に応じて工賃を支払う。									
		担当課	障害福祉課												
実績集計															
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年間計
新規契約数	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	1	1	2	2
契約終了数	0	1	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	3
現契約数	19	18	17	17	17	17	105	16	16	16	16	17	18	99	204
評価															
上半期評価	・登録者数は5月・6月に退所者（転居・障害の重度化）があり4月当初より2名減少し、1日平均の利用者は12名前後である。今後も事業対象を町内の障害者を主とした場合、登録者数は20名前後で推移する見込みである。 ・3月より開始した受託清掃業務は、利用者に応じたマニュアルのもと安定して作業が行えている。店舗では、収支が黒字化していたが、8月から仕入方法を見直したことから、支出面での影響について経過観察が必要がある。 ・上半期は、常勤職員7名と非常勤職員2名で運営していたが、9月末で非常勤が1名退職。募集はしているが現在のところ応募はない。また、3月末で常勤2名が退職予定である。今後求人を行うが、後任のめどが立たない場合、事業の縮小も考えていく必要がある。														
年度評価	・登録者数は16～19人の間で変動している。1日平均の利用者数も年間通して12名前後であった。 ・今年度より新たに受託した清掃作業は、庁舎に加え令和4年4月にオープンする中土佐町こどもセンターの清掃業務の受託を予定している。施設外就労のストックヤードでは、令和3年10月に作業状況や環境に関する労働安全上の課題を労働衛生コンサルタントに確認してもらい、作業者の防刃手袋やガラス粉砕時の防塵マスク着用など安全に配慮した取り組みも進めている。 ・主たる事業所である店舗の弁当製造販売の収入は対予算増で推移しているが、弁当販売個数が漸減している。次年度前半はその要因を整理し、改善に取り組んでいく。 ・職員体制は、非常勤2人を含む9人体制に変わりはないが、5人が60代で職員の高齢化が進んでいる。現状維持を念頭に置きながらも、人材の動向により事業の見直しを考えていく必要がある。														

会務の運営		所管課	健康福祉課障害福祉係	委員会・会議名	自立支援協議会 相談支援部会
委員及び指導者名		部会長：中土佐町相談支援事業所 平井千鶴 部員：中土佐町健康福祉課 沖屋亜季・山口早苗／中土佐町社会福祉協議会 槌田由美・宮川悦子・有沢希望			
回	開催日時	開催場所	協議事項等		
1	令和3年4月28日 9：15～12：00	中土佐町社会福祉協議会 会議室	(1) 終結評価		
			(2) 相談支援部会の振り返り		
			決定事項・所感等	中土佐町だけでは解決できない圏域で検討が必要な地域課題については、高幡圏域障害保健福祉担当者会であげていくことになった。	
2	令和3年5月21日 9：15～12：00	中土佐町社会福祉協議会 会議室	(1) 終結評価		
			(2) 相談支援部会の今年度の取り組みについて		
			決定事項・所感等	今年度の取り組みの改善として、GSVの事例を各自持ち回りで提出し、資質の向上の目指すこととなった。	
3	令和3年6月17日 9：15～12：00	中土佐町社会福祉協議会 会議室	(2) 終結評価		
			決定事項・所感等	他市町村から引っ越しをしたが転入手続きをしていない場合、健康福祉課で把握しずらく、また支援が必要な状況になっても福祉サービスが利用できない。転出も同様で、他市町村に引っ越しをしても手続きをしていない場合は、引っ越し先の行政機関に引継ぎができないなどの課題がある。あったかふれあいセンターなどの地域の支援機関との連携が重要である。	
4	令和3年7月16日 9：15～12：00	中土佐町社会福祉協議会 会議室	(1) 終結評価		
			(2) GSV 事例提出 健康福祉課 山口保健師		
			決定事項・所感等	アルコール依存症の方への本人、家族支援について今後、中土佐町でどのような体制で支援を行っていくのか検討が必要であるため、アルコール問題があるケースのGSVを実施していきながら、地域課題を整理していくこととなった。	

5	令和3年8月26日 9:15～12:00	中土佐町社会福祉 協議会 会議室	(1) 終結評価	
			(2) GSV 事例提出 健康福祉課 山口保健師	
			決定事項・所感等	GSVから見えた地域課題への取り組みとして、発達障害のある若年層やその家族が発達障害について学んだり、当事者同士で話をするなどの機会がないため、住民への障害理解の啓発や、当事者活動の充実を図っていく。
6	令和3年9月30日 9:15～12:00	中土佐町社会福祉 協議会 会議室	(1) 終結評価	
			(2) アディクション支援について	
			決定事項・所感等	アディクション支援については、相談支援部会のGSVであがった地域課題を「精神障害者にも対応した包括ケアシステムの検討会」にて検討していくこととなった。
7	令和3年10月27日 9:15～11:30	中土佐町社会福祉 協議会 会議室	(1) 終結評価	
			(2) ケース検討	
			決定事項・所感等	中土佐町で次年度、基幹相談支援センターが立ち上がることになった。今後相談支援部会を基幹相談支援センターが実施していくのであれば、部会の内容なども検討が必要。
8	令和3年11月25日 9:15～12:00	中土佐町社会福祉 協議会 会議室	(1) 終結評価	
			(2) その他	
			決定事項・所感等	成年後見制度の利用に向けて支援している人や必要性があるケースが話題にあがる。それぞれの事業所で関わっているケースのうち、今後権利擁護支援センターにつなげる必要があるケースの整理を行うことになった。

9	令和3年12月16日 9:15～12:00	中土佐町社会福祉 協議会 会議室	(1) GSV 事例提出 健康福祉課 山口保健師	
			(2) 終結評価	
			決定事項・所感等	GSVを実施し、地域課題としてアルコール依存傾向のある方の支援について意見があがる。家族が本人への関わり方がわかりにくかったり、支援者が行う本人や家族に対する支援についても難しさがある。また、地域全体として依存症の理解の低さがある。
10	令和4年1月26日 9:15～12:00	中土佐町社会福祉 協議会 会議室	(1) 終結評価	
			(2) その他	
			決定事項・所感等	終結評価のケース検討から、障害理解（特に精神障害）の啓発の必要性について話し合われた。地域住民もそうだが、行政や社協職員に対する職員教育や人材育成という視点でも考えていく必要がある。障害者計画の取り組みの中にもあることから、今度どのように取り組んでいくか検討が必要である。
11	令和4年2月24日 9:15～12:00	中土佐町社会福祉 協議会 会議室	(1) GSV 事例提出 相談支援事業所 宮川	
			(2) 終結評価	
			決定事項・所感等	同じ法人内の職員に相談支援事業所が障害のある方の相談先として知られていない状況があった。相談先の周知を法人全体の周知として考えていくのか、障害福祉として行政と連携した周知を行っていくのか検討も必要である。
12	令和4年3月24日 9:15～12:00	中土佐町社会福祉 協議会 会議室	(1) 終結評価	
			(2) その他	
			決定事項・所感等	GSVのケースがあがりについたため、各機関で動けていないケース（終結評価にあがらないケース）について支援状況の見直しをすることになった。

会務の運営		所管課	健康福祉課 障害福祉係	委員会・会議名	自立支援協議会 就労部会
委員及び指導者名		部員：須崎公共職業安定所 中倉万貴、須崎福祉保健所健康障害課 中内菜々美、永森萌美、障害者就業・生活支援センターこうばん 太田真紀、中土佐町身体障害者相談員 南絹江、中土佐町商工会青年部 黒原一人、中土佐町社会福祉協議会 宮本明美・平井千鶴、中土佐町健康福祉課 沖屋亜記希			
回	開催日時	開催場所	協議事項等		
1	令和3年8月24日 15：30～ 16：30	中土佐町役場1会 大会議室	(1) 「はたらく」一歩応援イベントについて		
			(2) 町内の企業向けへの障害者雇用に関するアンケート調査について		
			(3) スケジュール確認		
			決定事項・所感等	(1) 「はたらく」一歩応援イベントについては、11月に実施予定。今年は引きこもりや生活困窮者などが参加しやすい様に障害者に限らず実施する。 (2) アンケートの内容に意見出しを行う。修正後11月頃にアンケートを実施予定。アンケート集計結果が出るのが1月頃を予定。	
2	令和4年3月14日 15：30～17：00	中土佐町役場1会 大会議室	(1) 町内の企業向けへの障害者雇用に関するアンケート調査について		
			(2) 働く一歩応援イベント、就労ケース検討会について		
			(3) 次年度のスケジュールについて		
			決定事項・所感等	(1) 町内の企業向けアンケートは、217企業のうち、80企業の回答があった。回答のあった企業のうち、障害者雇用を「考えている」と回答した企業は7企業、「今後考えてみたい」という企業は15企業であった。今後の取り組みについては決定しなかったため、アンケート結果を活かせるよう検討が必要である。 (2) 「はたらく」一歩応援イベントは参加者数が伸びないため次年度は実施しないことになった。また、就労ケース会については、鯉乃國の萬屋の利用者においては、モニタリングなどでケースについて検討できていることから一旦終了することとなった。	

会務の運営		所管課	健康福祉課障害福祉係	委員会・会議名	自立支援協議会 住まいの部会
委員及び指導者名		委員長：岡村千賀 委員：住民代表 日林正・藤田伶美、中土佐町知的障害者相談員 吉岡康雄、せせらぎ園施設長 古谷学、一陽病院相談員 大森紀明、須崎福祉保健所健康障害課 永森萌美、中土佐町社会福祉協議会 宮川悦子、中土佐町健康福祉課 市川みずほ			
回	開催日時	開催場所	協議事項等		
1	令和3年11月17日 10:00～11:30	中土佐町社会福祉協議会 2階会議室	(1) H29年度自立支援協議会から町への要望項目についての現状報告		
			(2) R3年度事務局の取り組み報告（GH開設のシュミレーション）及び意見交換		
			(3) 今後の住まいの部会について		
			決定事項・所感等	町内のグループホームの設置については、町外へ範囲を拡大して運営主体となり得る事業所へ声をかけていく。また、グループホームの取り組みと並行して、ホームヘルプサービス等の在宅サービスを充実させていく方策を検討していく。	